

2020東京オリンピック招致に向けた
ランドスケープ提言

平成24年11月
一般社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会関東支部
2020年東京オリンピック招致支援特別委員会

提案の趣旨

最新のオリンピック憲章（2011 年 7 月から有効）では、I O C の使命と役割として、「環境問題に関心をもち、啓発・実践を通してその責任を果たすこと」、「オリンピック競技大会のよい遺産を、開催国と開催都市に残すこと」、「スポーツを文化や教育と融合させること」を掲げています。

東京都は、「東京 2020 オリンピック・パラリンピック招致委員会」を組織し、2020 年の招致に向けて、招致活動を活発に展開しています。

また、「2020 年の東京」と題してオリンピック開催年の東京の姿を描き、その実現に向けた実行プログラムを策定しました。その前文には、オリンピック・パラリンピック開催により、日本の首都であり、世界を代表する大都市である東京を 21 世紀にふさわしい都市へと進化させ、東日本大震災の痛手から立ち上がらんとする日本の再生を牽引し、都市のあるべき姿を世界に示す決意が述べられています。

この提案書は、緑とオープンスペースの環境づくりの専門家としての立場から、オリンピック顕彰の精神や東京都の都市づくりの方向性をふまえ、2020 年東京オリンピック・パラリンピック招致支援活動の一環として、都市づくりと会場建設に関する考え方をまとめたものです。「安全・環境共生・健康生活」を柱とする本提案が具体化されることを関係各位に強く要望いたします。

平成 24 年 11 月

一般社団法人 ランドスケープコンサルタンツ協会 関東支部
支 部 長 村 岡 政 子

■ 東京オリンピック招致に向けた、ランドスケープ提言委員会メンバー ■

一般社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会関東支部
〒103-0004 東京都中央区東日本橋 3-3-7 近江会館ビル 8 階
TEL03-3662-8266 FAX03-3662-8268
<http://www.cla.or.jp>

委員長：細谷恒夫	枝吉茂種	佐藤憲璋	新井豊
村岡政子	内藤英四郎	加藤 修	丸山英幸
川尻幸由	村井寿夫	萩野一彦	鎌田正典
前澤洋一	河合康之	石田 晶	真鍋章良
椎谷尤一			

目 次

ランドスケープ専門家の参画	4
「安全・環境共生・健康生活の先進モデル都市東京」 を世界にアピールする花・水・緑の回廊構想の実現.....	4
目標達成に向けた取組の考え方	5
■ 「花笑み」のもてなし	5
■ オリンピックを契機に、官民が連携して主体的に緑化への取組みを継続し、伝播	5
■ 点から線・面への展開・・・「防災」「環境」「健康」の相互連携.....	6
[提案－1] 東京の安全を支える緑・オープンスペースのネットワーク形成	7
■ 点 《拠点空間確保》	7
■ 線 《ネットワーク形成》	7
■ 面 《構造改善》	7
■ 《構造改善》の提案	8
[提案－2] 自然と共生し、美しい首都の景観を創る花・水・緑の回廊形成	9
■ 点 《多様なポイントのエコアップ》	9
■ 線 《エコロジカルネットワーク形成》	9
■ 面 《美しく潤い豊かな都市景観の形成》	11
■ ヘリテッジゾーン中心部の水と緑の回廊形成に向けて	15
■ 明治神宮外苑の再整備の視点	15
[提案－3] 都民の健康生活に寄与する緑・オープンスペースのネットワーク形成	16
■ 点 《活動拠点の確保》	16
■ 線 《生活を楽しむ快適で便利なネットワークの充実／多様な活動を誘引》	16
■ 面 《地域への浸透》	17

ランドスケープ専門家の参画

- ・ランドスケープは、その土地のもつ資質と歴史を活かしながら、人々や都市にとって望ましい空間・環境を創造していく技術であり、「スポーツ・環境・文化の振興」を柱とする東京オリンピックの会場建設や都市づくりにおいてはその基盤となるものである。
- ・オリンピックの開催は、持続可能な社会の形成につながる都市環境を実現させる絶好の機会であることから、「東京オリンピック基本構想懇談会」などにおいて、ランドスケープ専門家の積極的な参画を図っていくべきである。

「安全・環境共生・健康生活の先進モデル都市東京」

を世界にアピールする花・水・緑の回廊構想の実現

- ・オリンピックを契機に大規模な都市整備が進行する機会を活かし、防災機能向上・バリアフリー化の加速・環境に対する配慮や少子高齢化社会のあり方に至るまで、世界の成熟都市が等しくかかえる問題を解決に導く礎となる。
- ・長期ビジョン「2020年の東京」に呼応し、21世紀をリードする環境都市 TOKYO に向けて、恒久的施設の整備、関連社会基盤整備と連携し、水と緑を活かした首都東京らしさの醸成に貢献する。

■更なる東京の進化に向けて・・・3つの目標（提案）

3つの目標	背景・課題	具体的対応（提案の骨子）
災害に強い首都の都市構造をつくる	・大きな被害が想定される首都直下型地震の切迫化 ・世界的な大規模災害の頻発 ・東日本大震災からの復興と安全な都市としての構造改善を国際的にアピール	【水と緑のネットワークを活用した防災機能強化】 ・防災・避難地機能を有する空間スケールに応じた重層的な防災公園の計画的整備 ・災害時に人が安全に避難できる、広域避難緑道網の整備（車の乗り入れを禁止、平常は健康ロード等として活用） ・臨海部や河川沿いの低地地域を対象とする高台を備えた防災公園の整備 ・幹線道路や河川の延焼防止機能を高める沿道・沿川緑化や大径木の保全・再生 ・台地面に分布する大規模な緑地・オープンスペース等を活用した、安全性の高い防災コアエリアの形成
世界の先進モデルとなる環境共生都市をつくる	・東京は、江戸時代から海や川と連携し、自然エネルギーと自然資源の循環を巧みに活用したエコシティであった。・・・そんな東京の自然が減少し質も低下 ・自然と共生する大都市のまちづくりのあり方、生活スタイルを示し、世界にアピール ・ヒートアイランド化の進行	【多様な空間のエコアップとネットワークの形成】 ・都市の緑化及び都心と臨海部をつなぐ地域を含む都市環境の大幅な改善・・・河川や幹線道路を軸とした風の道の形成 ・環境負荷の低減と資源循環・・・水と緑を活かした低炭素都市づくりへの貢献 ・都市再生事業と連携した都心の自然再生（河川の再生、水辺の親水化、生物が生息できる環境づくり等）
健康ライフが楽しめる先進モデル都市をつくる	・世界主要国での高齢化の進行 ・社会保障費の急増への対応 ・健康に対する都民の関心の高さ ・オリンピック遺産の有効活用	【緑の環境を備えたスポーツの場の計画的配置と活動ネットワークの充実】 ・従来の競技主体の運動公園に加え、健康相談等の機能を持ち、身近な場所で健康の維持・増進活動が楽しめる空間づくり・・・豊かな水と緑を活かした「健康スポーツ公園」の計画的整備 ・都心全域を対象とする広域的な歩行者・自転車網の形成（健康ロードの設定）

目標達成に向けた取組の考え方

■ 「花笑み」のもてなし



- ・ 日本を象徴する、桜。・・・2020年オリンピック・パラリンピック招致活動のロゴは、友好・平和の証として、感謝の気持ちとして、世界各地へ贈られてきたこの花をモチーフにデザインされている。



- ・ 花びらが一枚ずつ、世界をつなぐように一つの大きな輪となり、桜のリースを作り上げているこのロゴのように、ランドスケープ検討の要として【花笑み】を提案する。

【花笑み※】をキーワードとした美しく快適なもてなし

この言葉の下で「防災」「環境」「健康」の3つ取組みが相互に連携して機能を高め、世界中の人々が交流し、人と街が活力に満ちる空間づくりを目指す。

※「花笑み」は万葉集にも出てくる言葉で、花が咲くこと、咲いた花のような華やかな笑顔を表す。

■ オリンピックを契機に、官民が連携して主体的に緑化への取組みを継続し、伝播

- ・ 基盤整備から開催までの花と緑の育成、会期中の演出、資産の継承と発展的活用に向けた会期後の維持管理まで・・・地域住民や企業との役割分担と協力体制の確保。
- ・ こうした育成および環境づくりが、その後の花と緑にあふれるまちづくりを担う「ひとづくり」につながり、スポーツ空間が新しい交流や豊富な情報交換の機会を生み出す場となり、地域の活性化につながる
- ・ これらの過程を通じて、世論の関心が高まり支持率向上も見込まれる。

先行拠点整備

骨格の展開・育成

- ・ 多様な主体による参加・協働
- ・ 住民参加による盛り上げ

開催中の演出

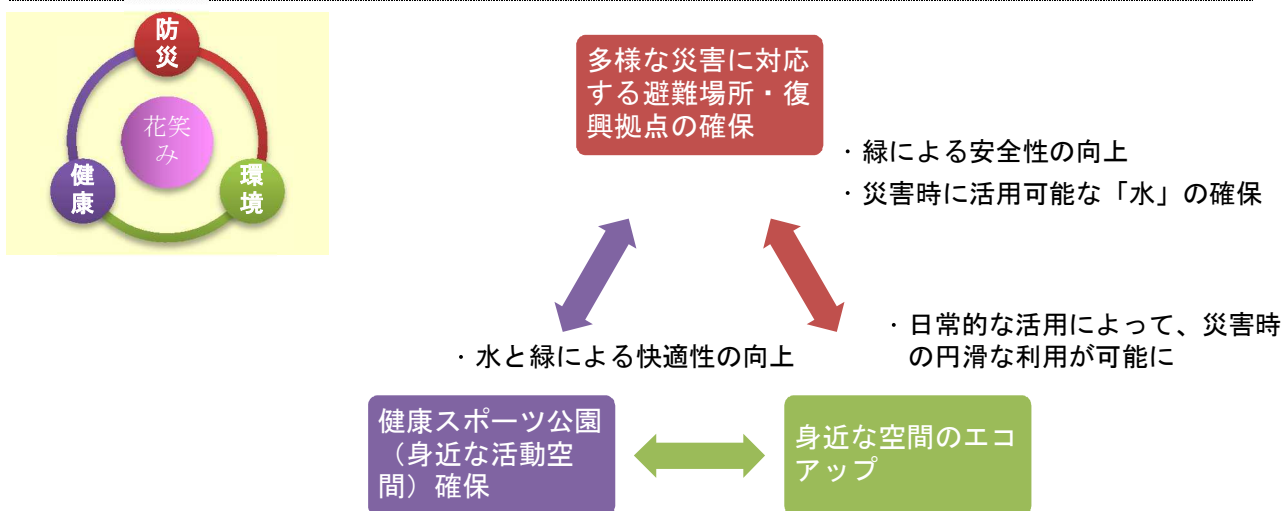
- ・ 多様な主体による参加・協働
- ・ もてなし

資産の継承

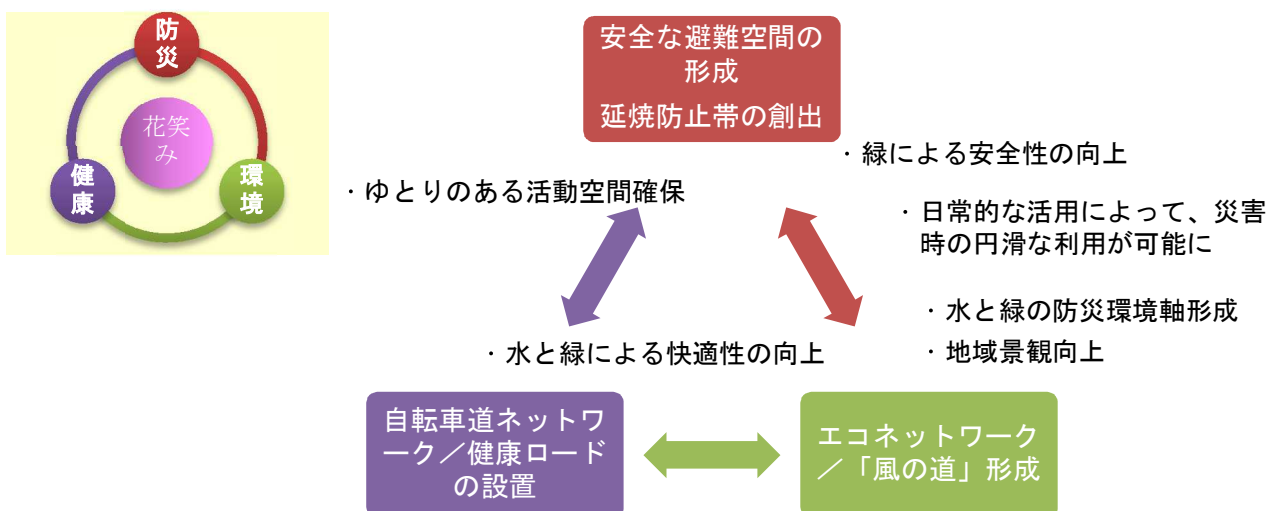
- ・ 多様な主体による維持・保全
- ・ 健康活動の展開・発展

■ 点から線・面への展開・・・「防災」「環境」「健康」の相互連携

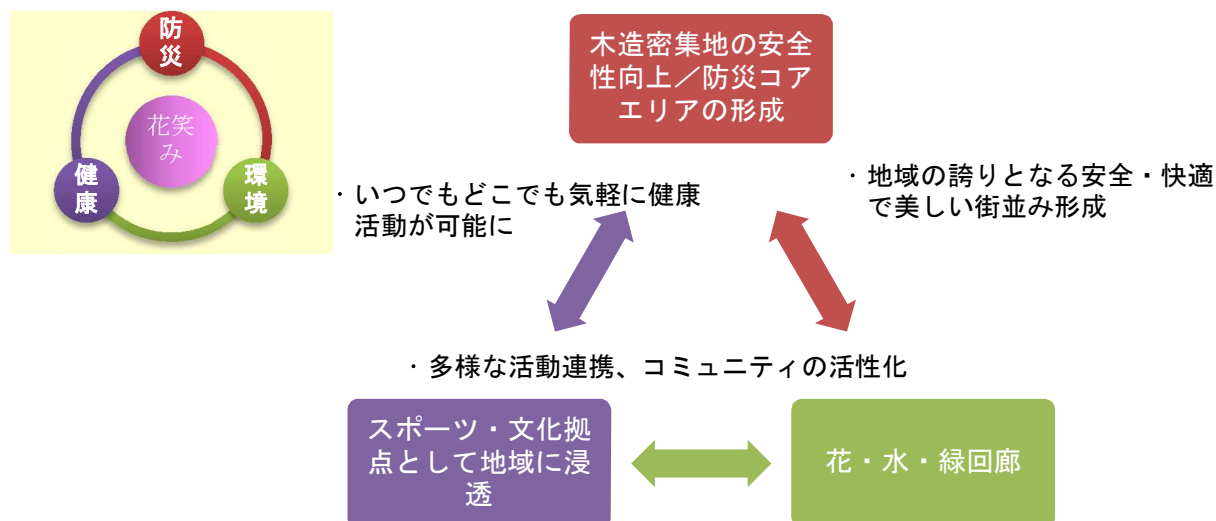
a) 《点》 拠点整備



b) 《線》 ネットワーク形成



c) 《面》 浸透・構造改善



[提案－１] 東京の安全を支える緑・オープンスペースのネットワーク形成

■ 点 ≪拠点空間確保≫

ゼロメートル地帯住民 の避難場所確保

立体公園の整備等

- ・【対象】：臨海部や荒川・江戸川・隅田川沿いのゼロメートル地帯
- ・【対応】：首都直下型地震による津波（想定高3m）や豪雨による荒川の氾濫（浸水深2～5m）を想定し、1～数ヘクタール規模の避難場所となる立体公園を整備する。
- ・【工夫】：避難場所として指定されている公共・民間施設などとの一体的整備を図ることで、より広がりのある避難スペースを確保する。

広域避難・復興拠点の 形成

防災公園の整備等

- ・【対象】：東京都地域防災計画で避難場所に指定されている場所のうち、敷地規模が大きく広域からの避難場所に適した場所
- ・【対応】：区の行政枠を超えた広域避難・復興拠点として位置づけ、新たな防災公園の併設などを行って、大規模災害時の拠点機能を高める。
- ・【工夫】：現在、避難場所に指定されている大規模な公園緑地については、その防災機能をより高める。

■ 線 ≪ネットワーク形成≫

安全に避難できる 空間確保

避難歩行路のネットワーク形成

- ・【対象】：避難場所となる公園緑地や広域避難場所・復興拠点とを結ぶ避難路の充実が必要な地域
- ・【対応】：街区から広域までの生活空間レベルに応じた安全に避難できる歩行者路・緑道網を整備する。市街地内での新たな緑道や歩車共存道路の整備などを推進する。
- ・【工夫】：広域的な歩行者路については、既存の広幅員歩道を持つ道路や緑道と都で整備中の「自転車走行空間」などを結ぶ形で連続性を確保

市街地の延焼を防止

道路や河川空間と一体の植栽帯を保全・創出

- ・【対象】：23区内の主要道路（三環状道路・骨格幹線道路・緊急輸送道路・避難道路）沿いや河川沿いなど
- ・【対応】：道路や河川空間と一体で延焼防止植栽帯を形成。良好な街路樹が形成されている道路については、延焼防止機能の向上につながる補植や大径木の保全・再生を推進する。
- ・【工夫】：建築物の耐震・不燃化と併せた連続性のある植栽地を創出。

■ 面 ≪構造改善≫

木造住宅密集地の安全 性の向上

防災公園街区の形成

- ・【対象】：木造建築物が密集し防災上の危険性が高い市街地地域
- ・【対応】：防災公園の確保と一体の市街地整備
- ・【工夫】：周辺市街地の道路拡幅・建築物耐震化・公共施設整備等を一体的に推進する防災公園街区事業を展開し、まちの安全性を高める。

首都東京の広域防災コ アエリアの形成

緑・オープンスペースが凝集するＪＲ山手線内一帯

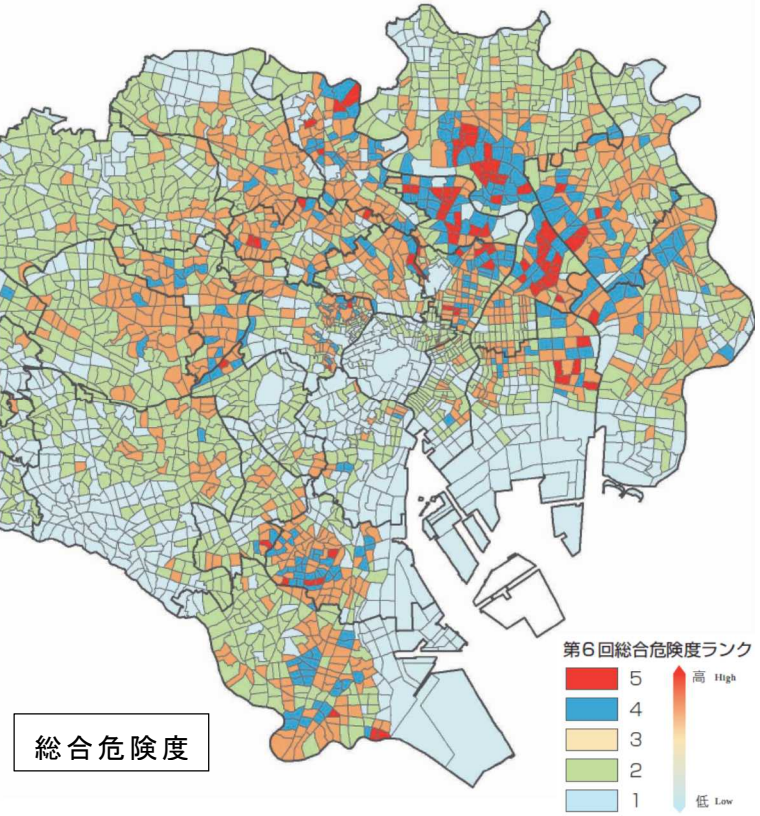
- ・【対象】：台地面を形成し、大規模な公園緑地や公民のオープンスペースが凝集するＪＲ山手線内一帯
- ・【対応】：建築物の焼失・倒壊等の危険度が高い地域に囲まれた中で、被害の大規模化を構造的に防ぎ、339万人避難者の最終的な安全確保の場等として位置づける。
- ・【工夫】：避難場所となる公園緑地の整備に加え、教育施設等の広がりのあるオープンスペースの確保、再開発事業等での公開空地の連続化による避難スペース充実、延焼防止機能の高い街路樹網形成などにより、さらなる防災機能の向上を図る。

■ 《構造改善》の提案

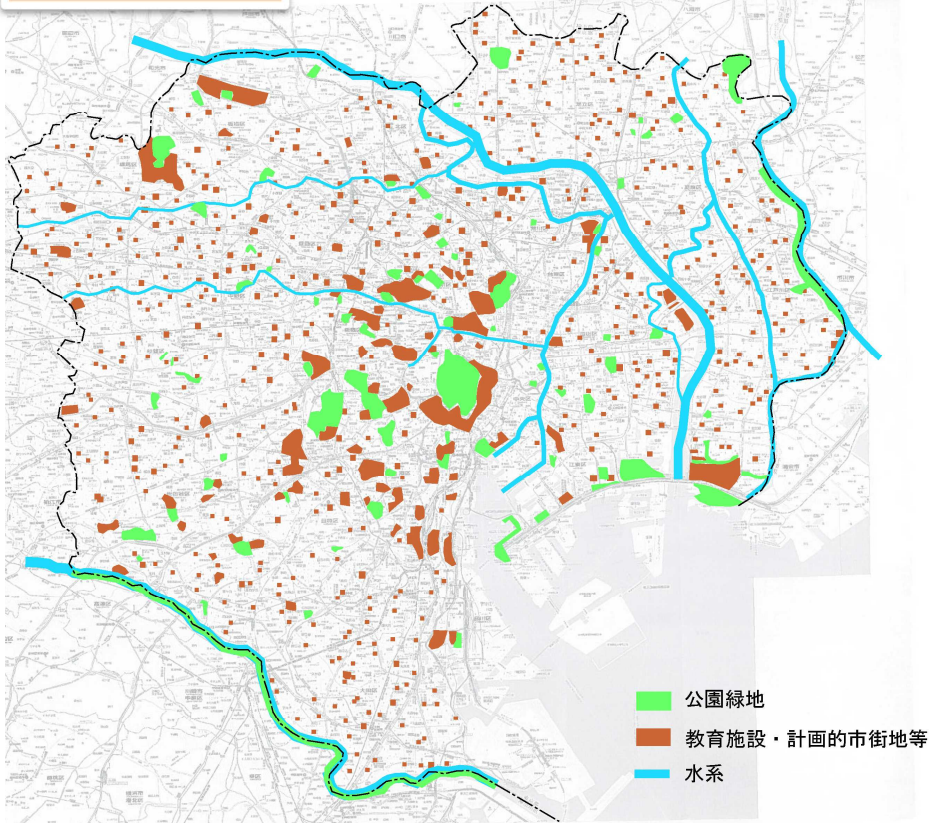
検討の前提



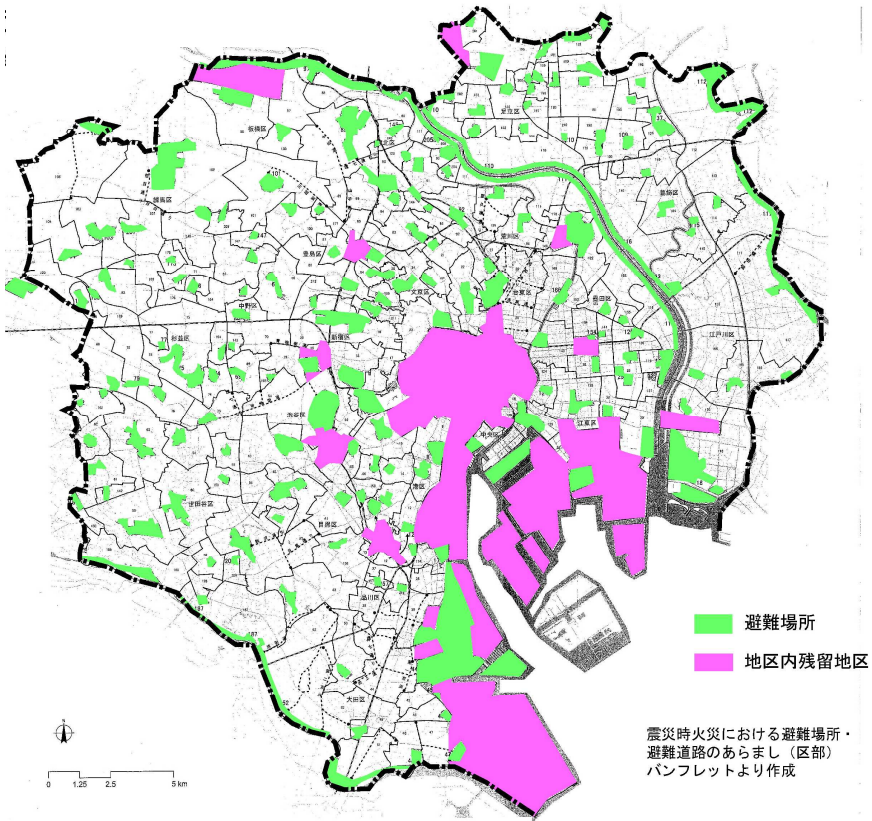
- 東京は、武蔵野台地に続く山の手台地が海(江戸湾)に落ち込む台地と海の接点にあたる。
- 東側低地部の危険度が特に高く、山手線外縁部も危険度の高いエリアが多い。



現況



■まとまりのある緑地・公共施設用地(計画的市街地を含む)



■区部の指定避難場所・地区内残留地区(H19年度改定)

東京 花・水・緑の回廊構想(提案)



■水と緑のネットワーク形成による
災害に強い都市(環境共生の都市づくり)

- 立体公園の整備
- 広域避難・復興拠点の形成
- 延焼防止機能を持つ植栽帯の形成
- 木造密集市街地の安全性の向上
- 広域防災コアエリアの形成
- 健康スポーツ公園の整備
- 自転車網の形成
- 健康ロードの整備
- 風の道の形成
- 花・水・緑の回廊の創出
- 災害危険度の高いエリア
- 水系
- 既設公園
- 教育施設などの公共施設用地等

[提案－２] 自然と共生し、美しい首都の景観を創る花・水・緑の回廊形成

■ 点 《多様なポイントのエコアップ》

生き物とふれあえる
環境づくり

東京版「都市の生物多様性指標」の設定

- ・【対象】：23区内の河川・公園・街路樹・公共や民間施設の緑地など
- ・【対応】：小規模で良質な環境共生の分散型地域核の配置・・・身近な生き物の生息環境に配慮した緑化や屋上ビオトープの推進。
生物の生息・生育環境改善の取り組みにより、街中でも多様な生き物とのふれあい楽しみ、環境共生が実感できる環境を創出する。
→ 臨海部や河川・運河などの環境改善による水辺の生き物環境の回復
→ 官庁街やビジネス街・公共施設・集合住宅・工場などでの都心部での雑木林の道づくりなど（日本が持つ世界最高水準の環境技術を活用した先駆的な取り組み）
- ・【工夫】：都市の生物多様性を表す指標として、生物多様性条約締結国会議が推奨している「都市の生物多様性指標（CIB）」（在来の生物多様性、生態系サービス、生物多様性の統治と管理の3つの要素について自己評価するしくみ）の東京版を策定

■ 線 《エコロジカルネットワーク形成》

多様な生物の生息・移
動環境形成

緑地・水辺等を繋ぐエコロジカルネットワークを形成

- ・海浜・河川及び都市周辺の保全樹林地等との連携を意識した水と緑の空間配置・導入施設・樹種構成等を検討

都心を貫く
「風の道」の形成

オリンピック施設会場をつなぐ緑の軸を創出

- ・【対象】：主要なオリンピック施設が配置される東京湾臨海部と神宮外苑・国立競技場周辺を結ぶ地域
- ・【対応】：街路樹・河川・公園緑地・公民の緑化空間等からなる緑の軸を創出し、都心部のヒートアイランド化を緩和する「風の道」を形成する。
- ・【工夫】：「風の道」はタイムステージを定めて成長させていく
→ 街路樹の整備や公共・民有地の緑化から始まって、拠点公園緑地の拡大、高速道路の地下化等に合わせた緑道整備などに拡大させていく。
→ 都市スケールの風の流れを考慮し、河川沿いの緑地の保全や緑化の推進を図る。

■ 風の道

■ 都心部のヒートアイランド化を緩和する「風の道」を形成する。
都市スケールの風の流れを考慮し、河川沿いの緑地の保全や緑化の推進を図る。

- ・「風の道」はタイムステージを定めて成長させていく
- ・・・・街路樹の整備や公共・民有地の緑化から始まって、拠点公園緑地の拡大、高速道路の地下化等に合わせた緑道整備などに拡大させていく。

■ 河川や緑地等のオープンスペースに隣接する地区では、

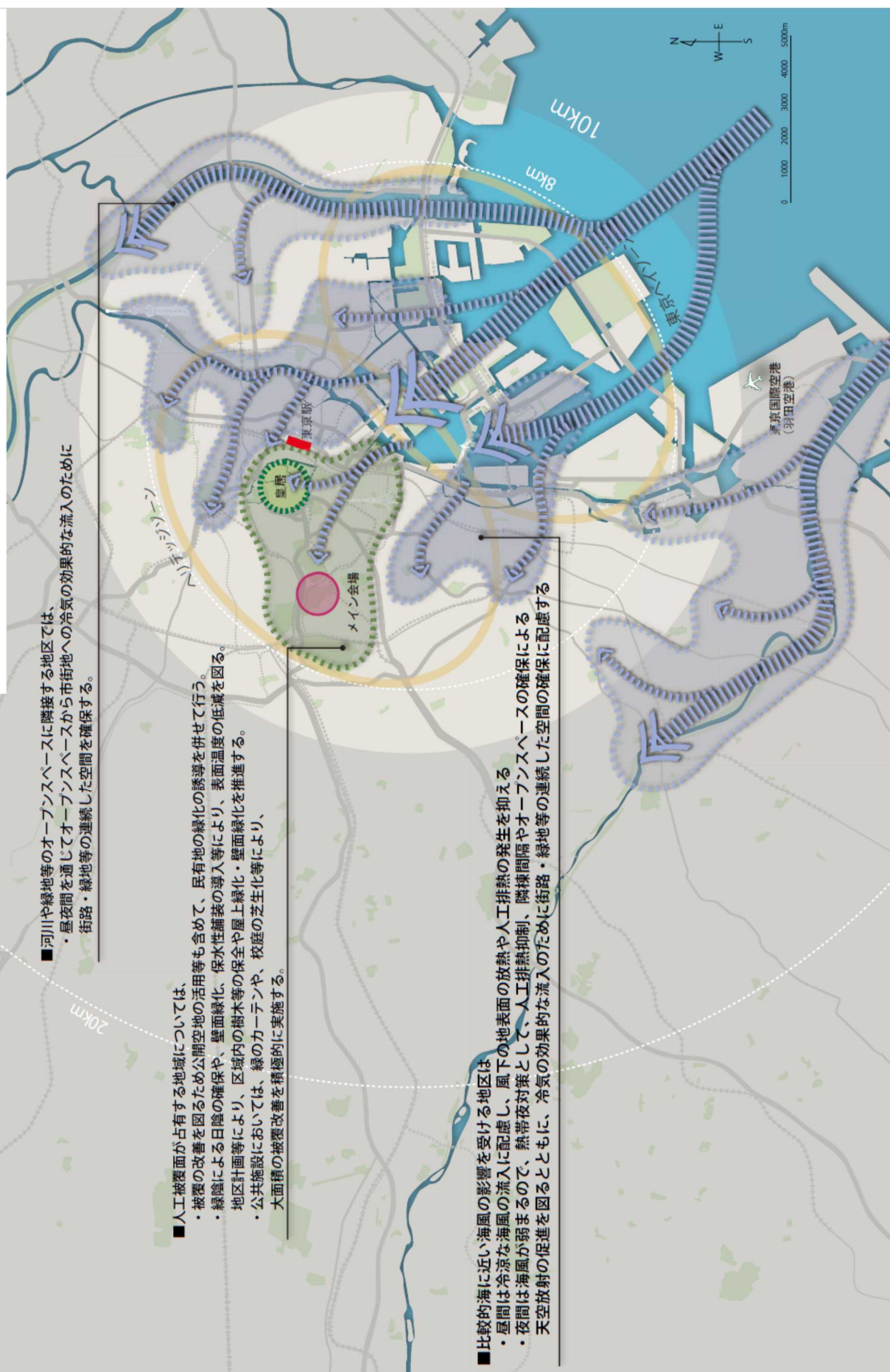
- ・昼夜間を通じてオープンスペースから市街地への冷気の効果的な流入のために街路・緑地等の連続した空間を確保する。

■ 人工被覆面が占有する地域については、

- ・被覆の改善を図るため公開空地の活用等も含めて、民有地の緑化の誘導を併せて行う。
- ・緑陰による日陰の確保や、壁面緑化、保水性舗装の導入等により、表面温度の低減を図る。
- ・地区計画等により、区域内の樹木等の保全や屋上緑化・壁面緑化を推進する。
- ・公共施設においては、緑のカーテンや、校庭の芝生化等により、大面積の被覆改善を積極的に実施する。

■ 比較的海に近い海風の影響を受ける地区は

- ・昼間は冷涼な海風の流入に配慮し、風下の地表面の放熱や人工排熱の発生を抑える
- ・夜間は海風が弱まるので、熱帯夜対策として、人工排熱抑制、隣棟間隔やオープンスペースの確保による天空放射の促進を図るとともに、冷気の効果的な流入のために街路・緑地等の連続した空間の確保に配慮する



■ 面 《美しく潤い豊かな都市景観の形成》

まちの特性を活かした 景観演出

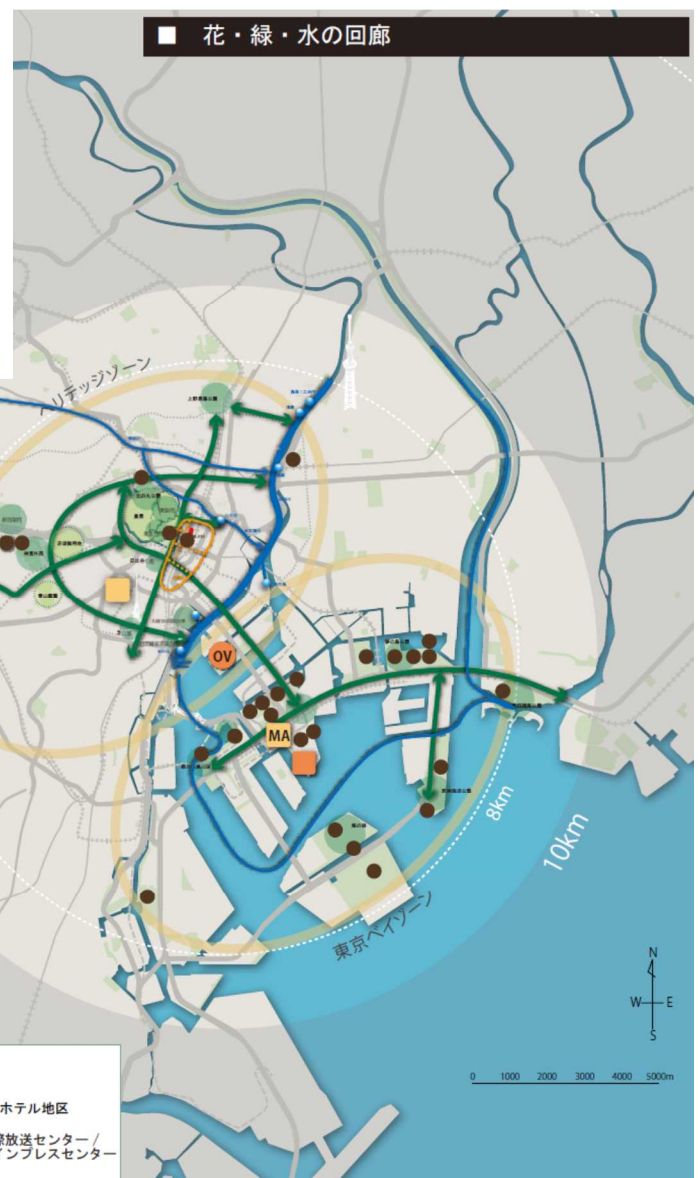
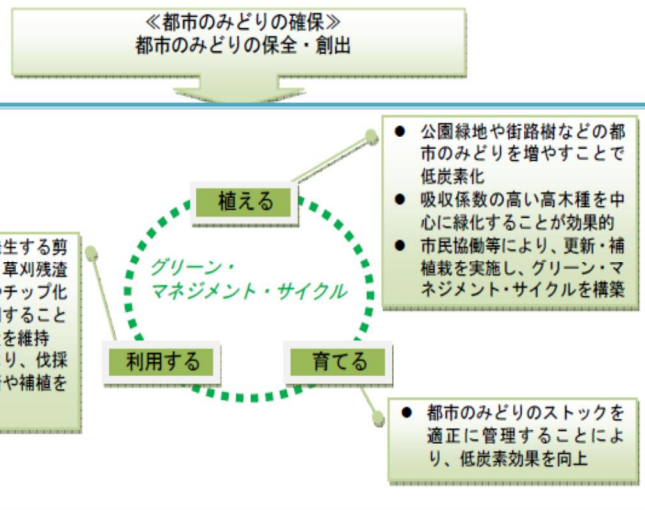
地域特性を活かしながら新たな魅力を引き出す花・水・緑回廊

- ・【対象】：23区内の臨海部、官庁街や主要なビジネス街・商業地など
- ・【対応】：ゆとりと美しさにあふれ、活気に満ちた「水と緑の大都市圏」の創造
まちの特性・特徴的な景観・歴史文化的資源等を活かした花・水・緑の回廊を創出することで美しい景観を創り、都市観光の発展に寄与。
- ・【工夫】：（例）・丸の内ビジネス街での企業と連携した花回廊・臨海部での水景を楽しむ水辺回廊
・下町地域での運河・水路の再生・活用による水辺回廊・渋谷・原宿等でのファッション産業と連携した花回廊・新宿の高層ビル群の公開空地等をつなぐ緑回廊等

資源の節減と循環性

低炭素都市づくりへの寄与／環境負荷物質の排出の削減

- ・省エネルギー・省資源対策や、自然・新エネルギー・システムの導入等
- ・グリーン・マネジメント・サイクルを意識した緑の保全・創出・・・住民との協働も含めたシステムの確立



■ 「低炭素都市づくりガイドライン」国交省 H22 年より



【緑の回廊】

- 重点路線
- 補助路線

【水の回廊】

- 隅田川（水上バスルート）
- 神田川・日本橋川
- 水上バス発着場

● 競技会場

OV 選手村

MA メディア向け宿泊施設

主要ホテル地区

国際放送センター/メインプレスセンター

【花の回廊】

商業・業務の中心
：銀座・日比谷通り
+
首都のシンボリック空間
：行幸通り・仲通り・馬場先通り

■ 都市戦略への寄与

・長期ビジョン「2020年の東京」に呼応・・・21世紀をリードする環境都市 TOKYO に向けて、オリンピックをきっかけとした恒久的施設の整備、関連社会基盤整備と連携し、首都東京らしさの醸成に貢献

- I. 国際的都市活動の拠点、日本の顔となる都心整備重点エリアを設定し、都市構造再編に向けた段階的な実施プログラムを作成。
 - 大規模な商業空間・オフィスビル等については公開空地を活用した花と緑の演出を誘引・・・都市計画上の規制（高い緑被率確保などの庭園都市デザインコードの検討など）と併せた容積率の上乗せや優遇税制などによる誘導等、民間の工夫を引き出す種々のしくみを活用し緑豊かな憩いの空間を効果的に創出。
 - 近世～近現代につながる日本固有の空間としての皇居・・・首都の核を成す水と緑のオープンスペースはエコシティの象徴ともいえる。これに連なる空間においては、伝統様式等を意識した素材・色彩等の活用も含めたきめ細かい演出により日本的なもてなし空間を形成
 - 日本・東京の中央駅（表玄関）としての東京駅と、広がりがある皇居外苑とを結ぶ「都市の門」を形成する空間は、街の歴史と場所の記憶・象徴性・ゲート性に配慮した演出
- II. 道路を軸とした広がりや厚みのある緑を形成・・・公園とその周辺の街路空間を一体として整備することにより、緑豊かでゆとりのある空間を創出
- III. 日本の造園技術、水・エネルギー循環技術等を駆使、独自の気候風土も勘案し、関係機関の連携による交通・都市インフラ・資源総合循環システムを構築
- IV. 都・区市町村・事業者・住民等が協働し、交通機関・公共空間のユニバーサルデザイン化を一体的・面的に推進（移動等円滑化基本構想の策定地区：特に海外からの利用者の多い上野・御徒町地区、曳舟周辺地区等）
 - 面的な無電柱化を推進／歩きやすい歩道の整備・放置自転車対策／利用者が多い駅の周辺や東京スカイツリー周辺等の観光地で多言語表記の観光案内標識設置を拡充
 - 規制緩和による河川敷地の利用や、地域の先駆的な取組を支援／既存イベントとの連携により賑わいを拡大・・・夜景の演出等を、多様な人々が集う地域のシンボルとなる空間づくり
 - 隅田川テラスの整備推進：ベンチ・案内サイン等の設置により、快適な水辺散策空間を創出／隣接部も含めた一体的な緑地の充実と住民等の協力による花卉植栽の導入により「花の川」として演出
 - 岸辺のアクセス改善：防災船着場の平常時の一般利用を拡大し、民間事業者等による多様な魅力ある舟運ルートの開発を誘導

■ 環境・景観形成上の主要なポイント



■ 明治神宮外苑の再整備の視点

- 1 歩いて楽しい安心・安全空間の形成
- 2 絵画館前の中央広場を再生
- 3 千駄谷駅・信濃町駅の改修
- 4 敷地の拡張：都営霞ヶ丘アパートの公園区域への取り込みの検討
- 5 神宮球場の再整備



■ ヘリテッジゾーン中心部の水と緑の回廊形成に向けて

- ① ブールバールによる皇居外苑と神宮内苑の連携
- ② 高速道路の地下化による明治神宮内苑と外苑を結ぶ乗馬道の復活
- ③ オーバーブリッジ(コンコース)による神宮外苑と新宿御苑の連携
- ④ 渋谷川の再生による水辺空間の復活

■ 明治神宮外苑の再整備の視点

① 歩いて楽しい 安心・安全空間の形成

JR千駄ヶ谷駅・信濃町駅及びメトロからのアクセス改善

- ・駐車場は環境に配慮し地下に配置。主会場へは地下からもアクセスできる構造とする。
- ・明治神宮の100年の森づくりに学び、苑内交通を見直すことが肝要。一部を地下化するなど、通過交通の制御と歩車分離の強化を検討

② 絵画館前の 中央広場を再生

混在する施設を整理し、広々とした風格ある大芝生広場に

- ・オリンピック開催時は大量の利用者の集散拠点になり、広域防災拠点ともなることに対応して、安心・安全な空間形成を目指す。

③ 千駄ヶ谷駅・信濃町 駅の改修

外構および屋上緑化により新宿御苑との緑の連続性を強化

④ 敷地の拡張

都営霞ヶ丘アパートの公園区域への取り込みの検討

- ・渋谷川再生と併せて、オリンピックパーク西側の「水と緑のゲート空間」を形成

⑤ 神宮球場の再整備

大学野球のメッカとしての神宮球場を再整備

- ・周囲の公園空間との一体となるゆとりのある緑の表情を形成

[提案－3] 都民の健康生活に寄与する緑・オープンスペースのネットワーク形成

■ 点 <活動拠点の確保>

「健康スポーツ公園」 の整備

地域住民が誰でもいつでも利用できる健康運動の場の整備

- ・【対象】：地域の身近な生活環境
- ・【対応】：従来の競技主体の運動公園に加え、地域住民が楽しみながら日常的に健康運動が続けられる活動空間として「健康スポーツ公園」を計画的に整備する。学校跡地の活用なども積極的に検討。
- ・【工夫】：健康運動指導士の指導や健康体力チェックなどが受けられ、「安全・効果・楽しい」機能が満たされる環境づくりを目指す。
→ 運動施設群とランドスケープの一体的な空間構成、施設配置、形態、材料、色彩等の総合的な美しさを意識したデザインにより、地域景観の向上にも寄与。

地域スポーツクラブの 活動の場の確保

子供たちに多様なスポーツ活動の機会・指導を受ける場を提供

- ・【対応】：急増する地域スポーツクラブ（少年サッカーチーム等を含む）の活動の場
- ・【工夫】：公園等以外にも、統廃合による学校跡地や建築物の屋上空間、未利用地の活用などを検討。



■「国際スポーツ都市・東京」としての基盤充実・・・遊歩道、自転車専用レーン、ジョギングコース、ジョギングサポートステーションなどが各所に整備され、いつでも、どこでもスポーツができる環境づくり。

■民間施設、サービス施設等との有効な連携・・・歩行者動線とリンクした交流施設やオープンスペースの有機的配置（自由に利用できる「憩いの空間」や「賑わいの空間」を利用しやすいように随所に配し、多様なコミュニケーションを促進）

■ 線 <生活を楽しむ快適で便利なネットワークの充実／多様な活動を誘引>

自転車網の整備

安全快適な動線機能／線的なスポーツ環境の充実

- ・【対象】：オリンピック会場の一体性と連帯性を向上し効率的な機能連結を図るとともに、都内を結び都下の市町や隣接都県ともつながる自転車網の形成を図る。
- ・【対応】：「東京都自転車走行空間整備推進計画」に基づく自転車レーンの整備を推進。
自転車による安全快適な都市内移動機能を確保するとともに、
線的な健康運動のための快適な活動環境を充実。多様なアクティビティを誘引
- ・【工夫】：自転車による移動が拡大することで、CO2低減にも寄与。
中長期的には、道路の構造的分離による自転車歩行者空間の設置ではなく、
独立した自転車走行専用空間網の形成を図る。これにより、災害時には安全な避難路としても機能するとともに、緑の軸・エコロジカルネットワークの強化にもつなげる。
→ 自転車交通量が多く安全性を向上させる必要がある区間、観光施設を結ぶ区間を先行整備
→ 無電柱化・歩道のバリアフリー化を一体的に実施し、安全快適な空間を確保

「健康ロード」の整備

歴史文化・景観資源等と結びついたアクティビティ空間の充実

- ・【対象】：皇居一周コースに代表される、東京の歴史文化・景観資源等と結びついたウォーキング・ジョギングコース
- ・【対応】：「都民健康ロード」として位置づけ、都内各地域に設定する。統一されたサインの設置。
緑化修景、緑陰・休養空間の確保、走りやすく足にやさしい舗装等。
- ・【工夫】：（例）臨海部お台場コース、荒川沿川コース、スカイツリーコース 等
訪問者や利用者にとって分かりやすい空間構成・・・主要ポイントの明確な視覚的繋がりを意識
上記「健康ロード」とは別に、健康スポーツ公園や既設公園・学校等を繋ぐ形で、
地域住民が身近な場所でウォーキングやジョギングを楽しめる「身近な健康ロード」を設定する。

■ 面 《地域への浸透》

スポーツ文化・教育の
拠点形成

オリンピック遺産の保存と活用

- ・【対象】：東京オリンピックの主会場となる東京湾臨海部と神宮外苑・国立競技場周辺のスポーツ施設
- ・【対応】：オリンピック遺産として保存するとともに、日本のスポーツ文化・教育の拠点として活用
- ・【工夫】：豊かな緑と一体となり、地域に開かれた魅力的なスポーツ環境を創造
世界レベルのスポーツ拠点にふさわしい施設とともに、将来の展開に柔軟に対応できる環境整備
→ 地域のシンボルとして、優れた人材の育成の場として、そこで活動する者たちが
コミュニティの一員であることの誇りを共有できる美しく快適で風格のある空間づくり

世代・地域を越えたふ
れあいの場への展開

健康ライフ／ユニバーサルデザインのまちづくり

- ・【目標】：オリンピック誘致を契機に、都民・国民のスポーツへの参加を拡大し、都市の暮らしの中に多様な形でスポーツが根づく。
障害者スポーツがさらに発展し、障害者の社会参加が大きく進むとともに、スポーツ施設や公共交通機関を中心に、公共施設のバリアフリー化が大きく加速
→ 子供が外で安全に遊べるコミュニティ
→ お年寄や体の不自由な人が自由に活動できるコミュニティ
→ 人々がスポーツや文化活動を通じて交流するコミュニティ
- ・【対応】：「健康」「スポーツ」をキーとした産官学民一体の地域づくりの活性化を図る。
子供からお年寄まで家族揃ってスポーツや趣味を通じた地域の人の交流の促進
多様な住民参加の取り組み・交流ネットワーク等の活動を支援
- ・【工夫】：食事やスポーツの機会等を利用したコミュニケーションを誘発する仕掛けや装置が、随所に内包された地域づくり・・・日々の活動を通じ、あるいは行事を通じて多様なコミュニケーションを誘発する場の確保。（民間資金を導入した施設やサービス等との積極的な連携が求められる）

《人々がスポーツや文化活動を通じて交流するコミュニティ》

施設は公設民営方式とし、地域住民、NPOなどが施設を管理(学校も一利用者となる。ボランティア、生徒などによるローコストの管理)

■「国づくりの100年デザインの提案」
国交省 H15 年より

■身近な「健康スポーツ公園」「身近な健康ロード」の展開イメージ